

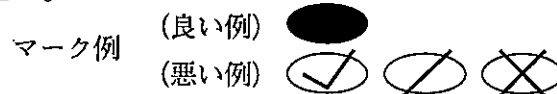
令和5年度（令和4年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）

中学校 高等学校 特別支援学校 中学部・高等部
美術

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○0	○0	○0	○0	○0
●1	○1	○1	○1	○1
○2	●2	○2	○2	○2
○3	○3	●3	○3	○3
○4	○4	○4	●4	○4
○5	○5	○5	○5	●5

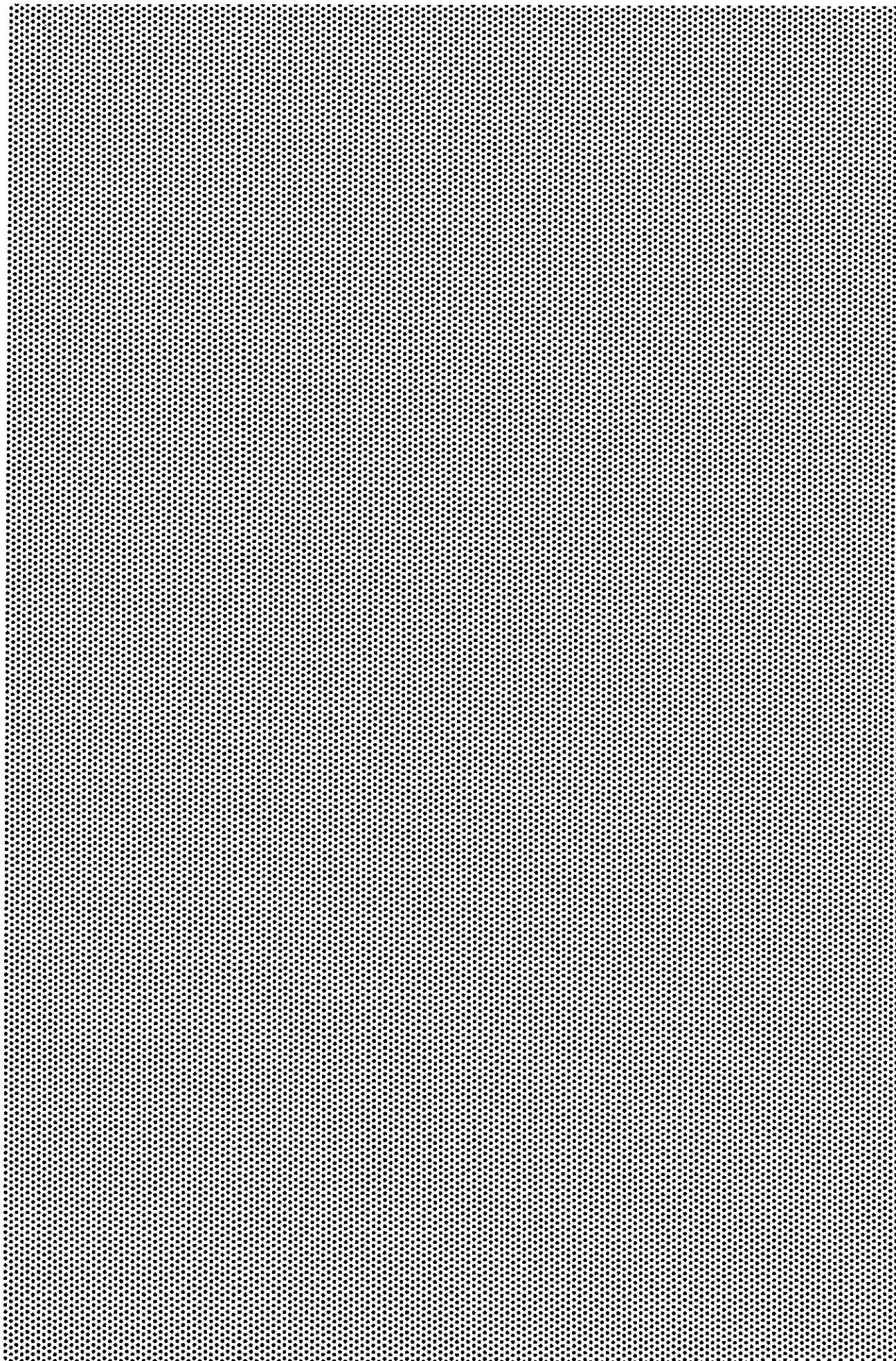
- ※ 正しくマーク（正しい選択問題への解答及びマーク）していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

記入例

（受審番号12345の場合）

- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。

※本冊子の裏表紙に、【注意事項】の続きが記載されています。本冊子を裏返して、必ず読んでください。まだ、問題冊子は開かないでください。



【共通問題】

第1問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、岩絵の具の扱い方について述べたものである。(①)に該当する語句として最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ア

岩絵の具を絵皿に取り出し、こんろで溶かして液状になった膠(膠液)を加える。これを指で混ぜた後、適宜、(①)を加えて絵の具の濃度を調節する。

a 水 b 粒膠 c ミヨウバン d 胡粉

- (2) 次の文は、岩絵の具の材料について述べたものである。文中の(①)・(②)に該当する語句の組み合わせとして最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。 イ

天然の岩絵の具は、鉱石を砕いて粉末にしたもので、粒子が細かいほど、色は(①)。粒子を火で炙ると色が変化するが、辰砂や朱の岩絵の具は(②)を含むので焼いてはいけない。

a ① 濃い ② 水銀
b ① 濃い ② 珪酸
c ① 薄い ② 水銀
d ① 薄い ② 珪酸

- (3) 次の文は、日本画の制作について述べたものである。文中の(①)・(②)に該当する語句の組み合わせとして最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ウ

下絵を転写する際には、下絵の裏側を柔らかい鉛筆で塗ってから麻紙ボードに重ね、鉛筆でなぞって転写する。転写した線を目安にして墨で輪郭線を描く(①)をする。輪郭線が乾いたら、(②)などを使って、全体に下地の色をつける。

a ① 砂子 ② 面相筆
b ① 骨描き ② 連筆
c ① 骨描き ② 面相筆
d ① 砂子 ② 連筆

- (4) 次の①・②の文は、日本画の技法について述べたものである。技法名として最も適切なものを、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

① 水を含ませた筆を使って、塗った色をほかす表現技法。立体感を出すことができる。

a 隈取り b 透き写し c にじみ d 野毛

② 絵の具が乾かないうちに、別の絵の具を重ね、自然に混色させる表現技法。

a ぼかし b 裏彩色 c 重色 d たらし込み

- (5) 次の説明文を読み、文中の(①)に入る作者名と該当する作品名の組み合わせとして最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。

季節や時刻、神秘的な様子が、雲やかすみといった自然現象、遠方の山の描き方の工夫などにより、効果的に表されている。線描を用いず、濃淡によって対象や空間を描く技法は、(①)らによって研究された、日本画の比較的新しい技術である。

〈作者名〉	〈作品名〉
a 片岡球子	山 富士山
b 横山大観	秩父霊峰春暁
c 酒井抱一	夏秋草図屏風
d 谷文晁	富士山図屏風

2 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、油絵の具による制作手順の一部を述べたものである。制作順に並べたものとして最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。 キ

- ① 穂先の細い丸筆を主に使い、細部を描いてモチーフの質感や光、影など、全体の調子を整える。
- ② 幅のある平筆などを用いてモチーフに色をつける。各モチーフの色を他のモチーフになじませると、画面全体の調和を出すことができる。
- ③ 溶き油で薄く溶いた絵の具を使い刷毛で塗る。この塗りによって、複雑で多様な色やマチエール（絵肌）をつくり出すことができる。
- ④ 時おり画面から離れて絵と実物を見比べる。絵の具を重ねる際には、絵の具を延ばすのではなく、置くように塗っていくと画面上で濁ることはない。

- a ②→③→④→① b ③→④→①→②
c ③→②→④→① d ②→④→③→①

(2) 次の文は、油絵の用具について述べたものである。(A)・(B)および(C)・(D)に該当する語句の組み合わせとして最も適切なものを、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

新しいパレットは、(A)をよく染み込ませてから使用する。片付ける際は、残った絵具をナイフで取り除いた後に、(B)を染み込ませた布で綺麗に拭き取る。

筆は絵の具がついたまま放置すると固まってしまうので、筆にせっけんを擦り付け、手のひらに押し当て円を描くようにしてよく洗う。絵の具を洗い終わった後は、(C)。

描きかけやまだ乾いていないキャンヴァスは、描いた面を別のキャンヴァスと(D)合わせてキャンヴァスクリップで留めておく。

① (A)・(B) ク

- a A テレピン油 B ペインティングオイル
b A リンシード油 B ペインティングオイル
c A テレピン油 B 筆洗油
d A リンシード油 B 筆洗油

② (C)・(D) ケ

- a C 乾燥させてポピー油を染み込ませておく D 背中
b C 乾燥させてポピー油を染み込ませておく D 向かい
c C せっけんが残らないように水でよくすすぐ D 向かい
d C せっけんが残らないように水でよくすすぐ D 背中

- (3) 次の文は、描画技法について述べたものである。(A)に該当する語句と、(B)・(C)に該当する語句の組み合わせとして最も適切なものを、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。なお、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。

レオナルド・ダ・ヴィンチは、輪郭線を描かず、薄く溶いた絵の具を何度も塗り重ねていく、(A)とよばれるぼかしの技法を用いた作品を描いた。

また、奥行きや遠近の表現では、(B)色を空気の基本的な色と考え、遠くにあるものほど(B)みを増して遠近感を描く(C)の手法も使って作品を描いた。

① (A)

- a スフマート b インパスト c グリザイユ d マチエール

② (B)・(C)

- a B 青 C 空気遠近法
b B 白 C 空気遠近法
c B 青 C 線遠近法
d B 白 C 線遠近法

- (4) 次の説明文を読み、作者名と作品名の最も適切な組み合わせを、下のa～dから一つ選びなさい。

生涯200点を超える作品を描いたが、その大半が自画像である。幼い頃に患った病気と交通事故の後遺症によって、描くことにのめり込んでいった。猿をペットとして飼っており、作品にも度々登場している。この作品には、様々な苦難の中でも自らの生き方を模索する強さが表現されている。

- | 〈作者名〉 | 〈作品名〉 |
|---------------|------------------|
| a 草間彌生 | 自画像 |
| b フリーダ・カーロ | いばらの首飾りとハチドリの自画像 |
| c タマラ・ド・レンピッカ | ブガッティに乗った自画像 |
| d 松本竣介 | 立てる像 |

第2問 次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、粘土による手の制作手順を述べたものである。()に該当する語句として最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ア

- ① テーマを考え、スケッチを描く。ポーズを決め角度を変えてデッサンし、構想を深める。
- ② 関節の位置や()を考えて芯をつくる。手でポーズを取り、感じを確かめながら粗付けする。
- ③ 全体の形や()を意識しながら粘土をつける。大胆な表現を心がけ、バランスを整える。
- ④ 面の表情を意識し多方向から観察する。指先にも気を配り、表面を整えながら完成に向かう。

a テクスチャー b 量感 c 表情 d 細部

- 2 次の文は、彫刻の技法について述べたものである。(A)・(B)および(C)・(D)に該当する語句の組み合わせとして最も適切なものを、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

彫刻には大別して二つの技法がある。(A)や彫刻刀などを使って木などを彫る方法と、(B)のある粘土などを肉付けしていく方法である。

塑造を制作する際には、はじめに、厚手の木の板に垂直に角材を立てて、木片を(C)でしっかりと固定して心棒とし、指や(D)などの跡を生かして制作する。

- ① (A)・(B) イ
- a A 鑿(のみ) B 可塑性
 - b A 鑿(のみ) B 熱硬化性
 - c A いもづち B 可塑性
 - d A いもづち B 熱硬化性

- ② (C)・(D) ウ
- a C しゅろ縄 D 木づち
 - b C ウェス D ヘラ
 - c C ウェス D 木づち
 - d C しゅろ縄 D ヘラ

- 3 次の作品は、バルジェッロ国立美術館に所蔵されているものである。作品の素材として適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。

a ブロンズ b 大理石 c 花こう岩 d 石膏

- 4 次の作品の作者名を、下のa～dから一つ選びなさい。

a 佐藤忠良 b マリノ・マリーニ c 橋本平八 d 木内克

- 5 次の説明文を読み、該当する作者名と文中の（ A ）に入る作品名の最も適切な組み合わせを、下の a～d から一つ選びなさい。 カ

1901年に、スイスで生まれたこの作家は、1930年ころにシュルレアリスムと呼ばれる芸術運動に参加し、抽象的で幻想的、また幻想的であると同時に強烈な現実性を持つ作品を発表した。しかし、シュルレアリストが超現実的な無意識の世界を表現しようとしたのに対し、この作家が求めていたのは現実そのものの探求だった。

作品（ A ）は、大胆な肉付けや刻まれたたくさんの線から、モデルの本質に迫ろうと粘土をつけたり削ったりして追求していった様子が見てとれる。

〈作者名〉	〈作品（A）〉
a アルベルト・ジャコメッティ	ヤナイハラⅠ
b コンスタンティン・ブランクーシ	空間の鳥
c フランソワ・ポンポン	シロクマ
d アレクサンダー・カルダー	ファブニール・ドラゴンⅡ

第3問 次の1～6の問いに答えなさい。

- 1 次の(1)・(2)に見られる配置の法則として、最も適切なものを、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

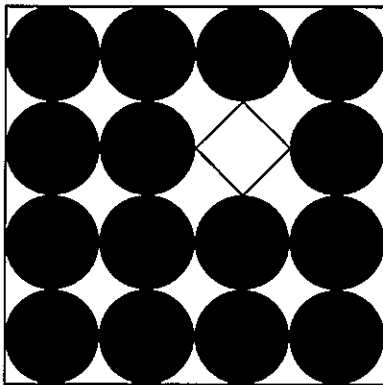
(1)

ア

- a シンメトリー b リピテーション c ムーブメント
d コントラスト

(2)

イ



- a リズム b バランス c アクセント
d グラデーション

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文中の(①)～(③)に該当する語句として、最も適切な組み合わせを、下のa～dから一つ選びなさい。 ウ

溝引きは、ポスターや平面構成等の制作に用いる技法である。はじめに、筆とガラス棒を持ち、ガラス棒の先を(①)に当て、(②)手を動かしてガラス棒を滑らせると(③)が引ける。

- | | | | |
|---|--------|---------|------|
| a | ① 定規の溝 | ② 丸く | ③ 曲線 |
| b | ① 紙の端 | ② ゆっくりと | ③ 曲線 |
| c | ① 定規の溝 | ② ゆっくりと | ③ 直線 |
| d | ① 紙の端 | ② 丸く | ③ 直線 |

- (2) 次の文中の(A)・(B)に該当する語句の組み合わせとして、最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。また、(C)に該当する語句として、最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。

広い面をムラなく塗る時は、輪郭線を丸筆や(A)などで丁寧に塗った後、輪郭線の内側を(B)で丁寧に塗りつぶす。最後に、隅や塗り残した部分を塗りつぶすと良い。

また、絵の具をはみ出させたくない部分は、あらかじめテープなどで覆っておくとよい。このことを(C)という。

- ① (A)・(B) エ

- | | | |
|---|--------------|--------------|
| a | A ペインティングナイフ | B 平筆 |
| b | A 面相筆 | B 平筆 |
| c | A 平筆 | B 面相筆 |
| d | A 面相筆 | B ペインティングナイフ |

- ② (C) オ

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| a | レタリング | b | マッピング | c | マスキング | d | ラミネート |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|

- 3 次の文は、色光について述べたものである。()に該当する語句として最も適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。 カ

赤と黄を交互に並べた図柄では、それぞれの面積が大きいと、赤と黄は別々の色として認識される。しかし、図柄を細かくしたり、離れたところから見たりすると、赤と黄が、あたかも1色であるかのように見えてくる。このように、隣り合う色が、網膜上で混ざり合って別の色に知覚される現象を()という。

- a 明度対比 b 減法混色 c 色の視認性 d 並置混色

- 4 次の①～⑤の文は、防染による型染め制作の手順を述べたものである。次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- ① 糊が乾燥したら、布を藍の容器に漬け込んで染めていく。藍の色が定着するまで何回か繰り返して染める。
- ② 下絵の紙の裏にスプレー糊をつけて渋紙に固定し、カッターナイフで下絵に合わせて渋紙をカットする。
- ③ 渋紙の上に紗をおき、その上から水を含ませた布で拭き、湿らせてよくなじませる。渋紙にカシュー塗料を塗り、乾燥したら、さらにカシューを塗り重ねて紗張りを行う。
- ④ 渋紙を染め布の上に置き、ヘラを使って糊を置いていく。その後布はよく乾燥させる。防染材料として、ここでは糊を使用しているが、他の防染材料としては、()などがあり、複雑な模様を表現することができる。
- ⑤ 全ての型紙で染め終わったら、藍が定着した布を、バットに入れた水に浸し糊を落とす。その後布をよく乾燥させる。

- (1) ①～⑤を制作順に並べたものとして、最も適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。 キ

- a ③→②→④→⑤→① b ③→②→④→①→⑤
c ②→③→④→⑤→① d ②→③→④→①→⑤

- (2) ④の文中の()に該当する語句として、最も適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。 ク

- a 蠟(ろう) b 豆汁 c 玉葱 d 柿渋

5. 次の (1)・(2) は、伝統的な模様の衣服について述べたものである。文中の (①)・(②) に該当する語句として、最も適切なものを、それぞれ下の a～d から一つずつ選びなさい。

(1) (①) はアイヌの民族衣装で、オヒョウなどの樹皮から取った繊維を使って織った布でつくられ、水に強く通気性に優れている。当時貴重であった木綿を大切に縫い付け、美しい文様を生み出した。 ケ

a アットウシアミブ b ハラト c レンガチヨリ d ウォンサム

(2) 紅型は、鮮やかな色彩と特徴的なデザインが美しい、沖縄に伝わる模様染めである。染める技法は二つあり、型紙で糊防染をしたあとに模様を染める「型染め」と、糊で模様の線を描いて防染してから染める「(②)」がある。 コ

a ステンシル b 建て染め c 筒描き d 板じめ

- 6 次の (1)・(2) は、木材加工について述べたものである。文中の (①)・(②) および (③)・(④) に該当する語句の組み合わせとして、最も適切なものを、それぞれ下の a～d から一つずつ選びなさい。

(1) (①) は、板材を組み合わせて構造物を作る技法である。また、(②) は、旋盤やろくろなどの回転を利用して成形する技法である。 サ

a ① 刳物（くりもの） ② 挽物（ひきもの）
b ① 指物（さしもの） ② 挽物（ひきもの）
c ① 刳物（くりもの） ② 曲物（まげもの）
d ① 指物（さしもの） ② 曲物（まげもの）

(2) 薄い板を、繊維方向が直交するように積層した板のことを (③) という。伸び縮みや反りが出にくく、縦の力にも横の力にも強い。木質廃棄物をかんなくず状に削り、接着剤で固めたものを (④) という。木工用や建築下地用に多く用いられる。 シ

a ③ 集成材 ④ パーチクルボード
b ③ 集成材 ④ 挽板
c ③ 合板 ④ パーチクルボード
d ③ 合板 ④ 挽板

第4問 次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の(1)・(2)の作品の作者名を、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

(1)

(2)

(1)

ア

a クロード・モネ

b 古賀春江

c ジャン＝フランソワ・ミレー

d アンリ・マティス

(2)

イ

a アンドリュー・ワイエス

b カスバル・ダヴィッド・フリードリヒ

c 男鹿和雄

d マルク・シャガール

2 次の (1)・(2) の作品の作者名を、それぞれ下の a～d から一つずつ選びなさい。

(1)

(2)

(1)

ウ

- a ジャン＝ミッシェル・バスキア
c 岡本太郎

- b ロイ・リキテンスタイン
d 村上隆

(2)

エ

- a 野田弘志
c ゲルハルト・リヒター

- b 山本二三
d 木下晋

25の14

3 次の (1)・(2) の作品の作者名を、それぞれ下の a～d から一つずつ選びなさい。

(1)

(2)

(1)

オ

a レイ・イームズ

b テヨ・レミ

c 渡辺力

d 原研哉

(2)

カ

a ピエロ・ガッティ

b 永井一正

c アンディー・ウォーホル

d 原健

4 次の作品について、(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) このステンドグラスのある建築物を、下のa～dから一つ選びなさい。 キ

- | | |
|--------------|----------------|
| a サン・ヴィターレ聖堂 | b シャルトル大聖堂 |
| c タージ・マハル廟 | d サグラダ・ファミリア教会 |

(2) この作品の作者名を、下のa～dから一つ選びなさい。 ク

- | | |
|-----------|---------|
| a ロン・ミュエク | b 塩田千春 |
| c 三沢厚彦 | d 日比野克彦 |

5 次の(1)・(2)の作品の作者名を、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

(1)

(2)

(1)

ケ

a アルネ・ヤコブセン

b ヘリト・トーマス・リートフェルト

c ミヒヤエル・トーネット

d マルセル・ブロイヤー

(2)

コ

a 尾形光琳

b 尾形乾山

c 宮川香山

d 松田権六

【選択問題 中学校】

第5問 次の1～3の問いに答えなさい。

1 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）第2章 各教科 第6節 美術 第1 目標」の一部を抜粋したものである。文中の（①）に該当する語句を、下のa～dから一つ選びなさい。 ア

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、（①）の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- a 身近な地域
- b 日本及び諸外国
- c 生活や社会の中
- d 身の回り

- (2) 次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）第2章 各教科 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容 第1学年 1 目標」の一部を抜粋したものである。文中の（②）に該当する語句を、下のa～dから一つ選びなさい。

イ

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて（②）表すことができるようにする。

- a 見方・考え方を働かせて
- b 表現方法を創意工夫して
- c 表現方法を工夫して
- d 適切な方法を使って

- 2 次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示） 第2章 各教科 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容 第1学年 2 内容 A 表現（1）イ」の一部を抜粋したものである。文中の（ ① ）・（ ② ）に該当する語句を、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

（ア） 構成や装飾の目的や条件などを基に、（ ① ）から主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

（略）

（ウ） 使う目的や条件などを基に、（ ② ）から主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。

（ ① ）

- a 対象の特徴や用いる場面など
- b 伝える相手や内容など
- c 造形的なよさや美しさ
- d 表現の意図

（ ② ）

- a 材料など
- b 社会との関わり
- c 想像したことなど
- d 使用する者の気持ち、材料など

- 3 次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示） 第2章 各教科 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容 第2学年及び第3学年 1 目標」の一部を抜粋したものである。文中の（ ① ）・（ ② ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選ばさい。

（2） 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ，表現の意図と創造的な工夫，（ ① ）美しさとの調和，美術の働きなどについて（ ② ）に考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

- | | | |
|---|-------------|-----------|
| a | ① 機能性と洗練された | ② 主体的・包括的 |
| b | ① 機能性と洗練された | ② 独創的・総合的 |
| c | ① 機能性と | ② 主体的・包括的 |
| d | ① 機能性と | ② 独創的・総合的 |

【選択問題 高等学校】

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）第2章 各学科に共通する各教科 第7節 芸術 第2款 各科目 第4 美術Ⅰ 2 内容 A 表現」の一部を抜粋したものである。文中の（ ① ）～（ ③ ）に該当する語句を、それぞれ下のa～dから一つずつ選びなさい。

絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 感じ取ったことや考えたことを基にした発想や構想

(ア) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、（ ① ）主題を生成すること。

(イ) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(イ) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

(イ) 表現方法を創意工夫し、（ ② ）創造的に表すこと。

(1) （ ① ）

- a 抽象的な概念から
- b 自然や自己の内面から
- c 多様な視点から見つめ直して
- d 夢や想像などから

(2) （ ② ）

- a 主題を追求して
- b 様々な可能性を意識しながら
- c 自己の表現の意図を大切にしながら
- d 作品と真摯に向き合い

デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(中略)

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

(1) 表現方法を創意工夫し、(③) 創造的に表すこと

(3) (③)

a 目的や計画を基に

b 中学校美術科での学習を基礎に

c 目的や機能を基に

d 色彩や材料などの造形要素の効果を生かし

2 次の文は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示） 第2章 各学科に共通する各教科 第7節 芸術 第2款 各科目 第6 美術Ⅲ 2 内容」の一部を抜粋したものである。

- (1) 文中の（ ① ）・（ ② ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。 エ

映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想
 (7) 映像メディアの特性を生かして（ ① ）を生成し、主題に応じた表現の可能性や効果について考え、（ ② ）創造的な表現の構想を練ること。

- | | | |
|---|------------------------|-----------|
| a | ① 独創的な主題 | ② 社会的・ |
| b | ① 目的や表現に関する諸条件などをもとに主題 | ② 社会的・ |
| c | ① 独創的な主題 | ② 個性を生かして |
| d | ① 目的や表現に関する諸条件などをもとに主題 | ② 個性を生かして |

- (2) 文中の（ ③ ）に該当する語句を、下のa～dから一つ選びなさい。 オ

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 （中略）
 イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞
 (7) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから伝統や文化の価値を感じ取り、（ ③ ）に果たす美術の役割や美術文化の継承、発展、創造することの意義について考え、見方や感じ方を深めること。

- a 平和や幸福
- b 国際間の交流
- c 独自の美意識
- d 国際理解

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～4の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和3年6月に文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の「第1編 障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」の一部である。文中の ～ に該当する語句を、それぞれ下のa～dから一つ選びなさい。

合理的配慮は、「障害者の権利に関する条約」第2条の定義において提唱された概念であり、その定義に照らし、我が国の学校教育においては、中央教育審議会初等中等教育分科会報告において、合理的配慮とは、「障害のある子どもが、他の子どもと に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の を課さないもの」と定義されている。なお、障害者の権利に関する条約において、合理的配慮の否定は、障害を理由とする に含まれるとされていることに留意する必要がある。

- | | | | | |
|--------------------------------|--------|-------|-------|------|
| <input type="text" value="ア"/> | a 平等 | b 均等 | c 対等 | d 同等 |
| <input type="text" value="イ"/> | a 習熟度別 | b 学年別 | c 課題別 | d 個別 |
| <input type="text" value="ウ"/> | a 対応 | b 負担 | c 義務 | d 責任 |
| <input type="text" value="エ"/> | a 差別 | b 区別 | c 分離 | d 偏見 |

- 2 次の表は、令和3年10月に文部科学省より示された「特別支援教育資料（令和2年度）」の「第1部 データ編」の表の一部である。表中の ・ に該当する語句を、それぞれ下のa～dから一つ選びなさい。

出典：「学校基本調査」（文部科学省）
※中等教育学校の特別支援学級はなし。

a 病弱・身体虚弱 b 自閉症・情緒障害 c 知的障害 d 言語障害

- 3 文部科学省の「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について（通知）（平成28年12月9日）」にある平成30年4月1日より施行された「通級による指導」に関する内容に該当するものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 知的障害者を対象とする通級による指導の制度化
- b 情緒障害者を対象とする通級による指導の制度化
- c 幼稚園における通級による指導の制度化
- d 高等学校における通級による指導の制度化

- 4 平成29年4月告示の「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動」に記載されている自立活動の内容について、次の(1)～(6)の区分に該当する項目を、それぞれ下のa～cから一つ選びなさい。

(1) 健康の保持	<input type="text" value="ク"/>	(2) 心理的な安定	<input type="text" value="ケ"/>
(3) 人間関係の形成	<input type="text" value="コ"/>	(4) 環境の把握	<input type="text" value="サ"/>
(5) 身体の動き	<input type="text" value="シ"/>	(6) コミュニケーション	<input type="text" value="ス"/>

- a 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
b 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。
c 日常生活に必要な基本動作に関すること。

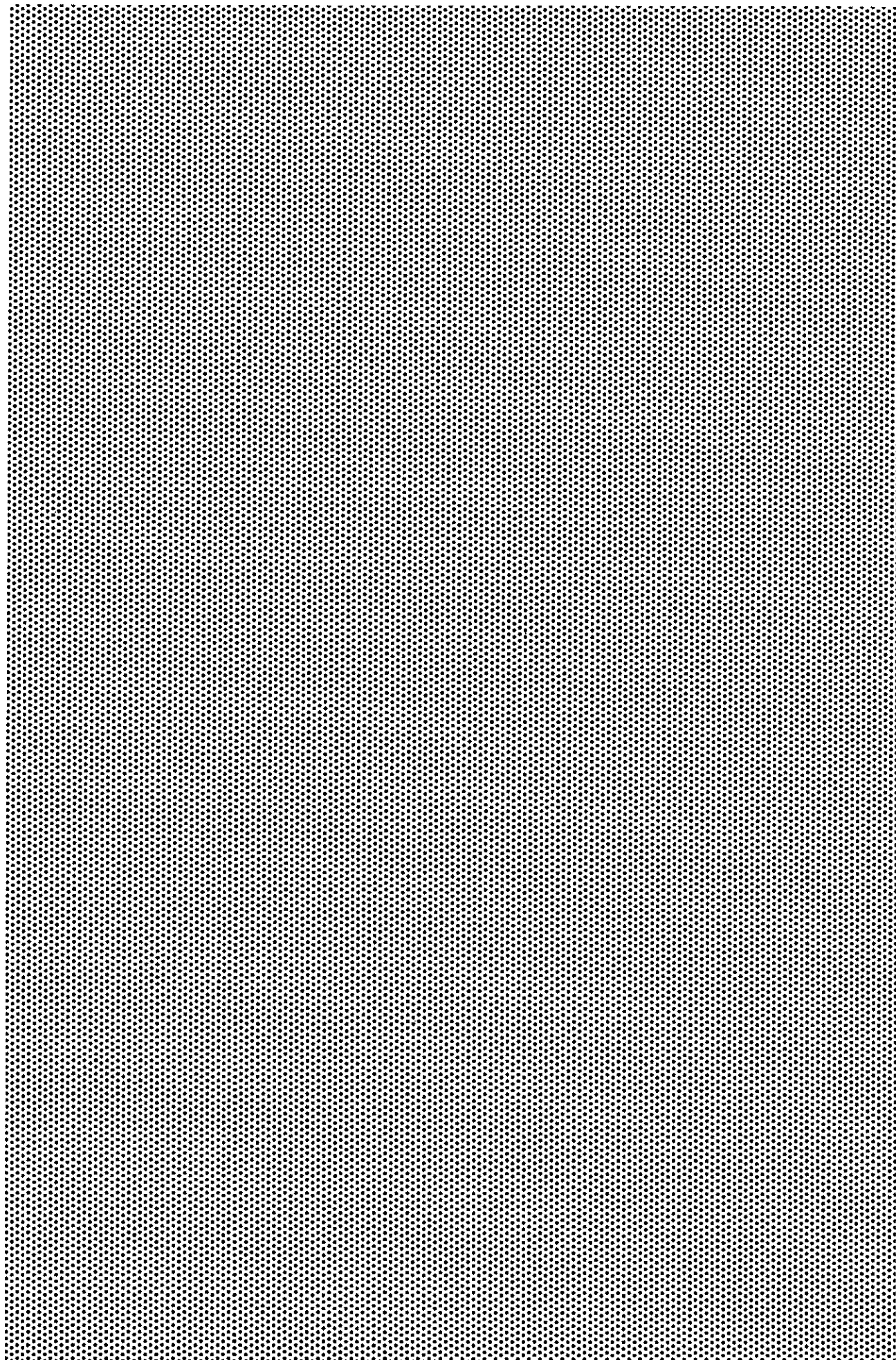
- a 状況の理解と変化への対応に関すること。
b 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
c 自己の理解と行動の調整に関すること。

- a 情緒の安定に関すること。
b 他者の意図や感情の理解に関すること。
c コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

- a 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
b 身体の移動能力に関すること。
c 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。

- a 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
b 保有する感覚の活用に関すること。
c 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

- a 集団への参加の基礎に関すること。
b 言語の形成と活用に関すること。
c 健康状態の維持・改善に関すること。



- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対して b と解答する場合は、下の（例）のようにアの解答欄の b をマークしてください。

（例）

ア	a	<input checked="" type="radio"/>	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 6 第5問は選択問題です。受審する校種の問題についてマークしてください。
- 7 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。

[illegible]